

— ME I WA —

エアー式スプレーヤ

ASK-10型

取扱説明書

パーツリスト

※御使用前に必ずお読みください。

※本書は大切に保管してください。

《ご あ い さ つ》

この度は、ME I WAエアー式スプレーヤをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本書は、安全で正しい取扱い方法や、点検整備などの必要な事柄を説明しておりますので、ご使用前に必ずお読み下さい。

「安全にご使用いただくために」や、**⚠警告** **⚠注意** アドバイスの記号は、特に重要です。

本書の中で、使用されている記号は、次のとおりです。

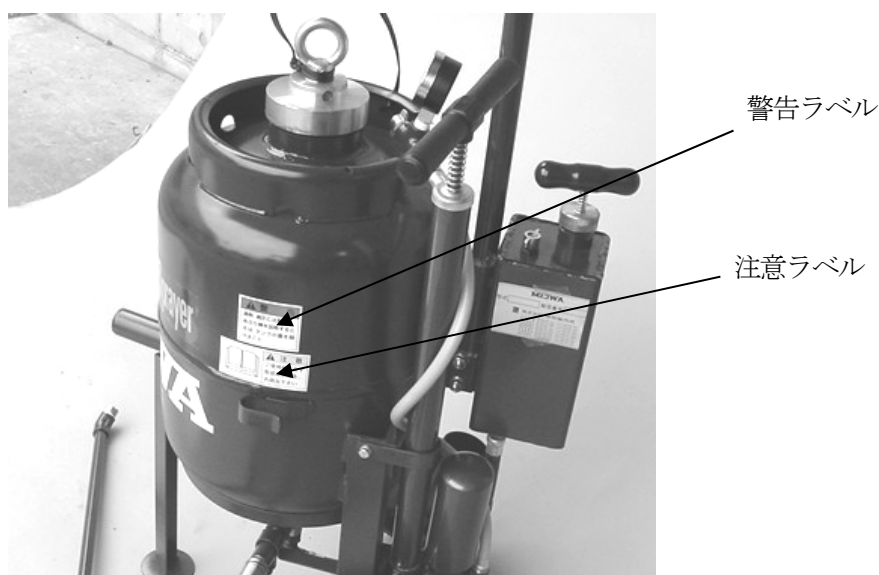
⚠警告	守らないと、死亡または重傷を招く可能性がある危険な状態を示します
⚠注意	守らないと、軽傷または中程度の傷害あるいは物損事故の可能性のある危険な状態を示します。
アドバイス	取扱いや点検整備などをするうえで、知っておいていただきたいことや、知っておくと便利なことを示します。

※ ご使用中の故障やその他ご不明な点、及びサービスに関するご用命は、当社、または当社営業所にお気軽にご相談ください。

【警告ラベル表示場所】



警告ラベルは常に読める状態にして下さい。警告ラベルを破損または紛失した場合は新しいラベルを取り寄せて交換して下さい。交換する時は、同じものか確認して下さい。



【安全にご使用いただくために】

- 主たる用途のみに使用する
本機は、アスファルト乳剤（以下乳剤）を散布する機械です。
用途を誤ると重大な破損事故を招くことになります。
- 機械の性能の限界を知る
本書では、主要諸元をお知らせしています。 機械の性能の限界を知って、それを超えない取扱いは、安全作業と機械を長持ちさせる秘訣です。
- 加熱、加圧に注意する
あぶり棒を加熱するときは、メインタンクの蓋を開けましょう。
- 正しい服装をする
強風などで思わぬ方向へ乳剤が飛散することがあります。安全メガネ、手袋、マスクなどの保護具を適切に着用しましょう。
- 警告文が全てではありません。
本書は、警告、注意などのお知らせをしていますが安全の全てを網羅することは困難です。本書を理解して、細心の注意をはってください。

【概 要】

- ・ エアー式スプレーヤーASK-10は、小規模のアスファルト乳剤の散布機です。
- ・ 手動式エアーポンプで乳剤を入れたタンクに空気を送り、空気圧を利用してタンク内から乳剤を吐出、ハンドスプレバー（以下スプレバー）のノズルから乳剤をフィルム状に散布します。
- ・ 移動に手押しハンドルを使用します。

【主要諸元】

型 式	ASK-10
散 布 能 力	約5～10L/min
散 布 圧 力	約0.1Mpa（約1～2kg/cm ² ）
ノ ズ ル 数	1
駆 動 源	手 動 ポ ン プ 式
散 布 ホ ー ス	2 m
タ イ ヤ	φ180
乳 剤 タ ン ク	約20L
重 量	約30kg
寸法（L×W×H）	270×500×950mm

【組立方法】

1. 開梱時の荷姿（付属品）

	名 称	数量		名 称	数量
1	本 体	1式	6	オイルカップ	1ケ
2	スプレバーA（ノズル付）	1本	7	エアー式スプレーヤー取扱説明書	1部
3	スプレバーB（散布コック付）	1本	8	メインタンク蓋用パッキン	1ケ
4	ハンドル	1本	9	ノズル	1ケ
5	蓋閉め棒	1本			

2. 組立方法

(1) スプレバーA（ノズル付）をスプレバー（散水コック付）にねじ入れ、締めつけます。

(2) スプレバーに散水ホースの取付金具をねじ入れ、締つけます。

アドバイス 乳剤はノズル先端のスリットに沿ってフィルム状に散布するので、お好みの角度に調整して下さい。

(3) ハンドルをハンドル差込みパイプに差込み、ボルトで固定します。

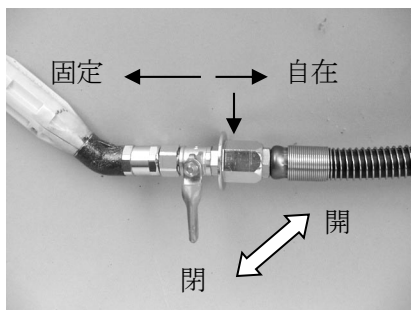
(4) オイルカップ受けにオイルカップを載せ、スプレバーをパイプキャッチでオイルカップに立て掛けます。

アドバイス オイルカップは、乳剤の垂れによる汚損防止に使用します。

【運搬・積降し】

⚠注意

- ・エアースプレーヤーASK-10は、空で約30kg（乾燥重量）あります。トラックの荷台などへの積降しは、二人以上で行ってください。
- ・運搬時は、メインタンクなどの蓋がゆるんでないことを確認し、スプレーヤーの散布コックを閉じ、ストッパーで固定して下さい。こぼれたり、漏れて汚損のおそれがあります。



【散布作業】

⚠注意

- ・取付金具などにゆりみやガタがあると、乳剤が漏れたり、ホースが抜けて乳剤が飛散するおそれがあります。
- ・散布コックは徐々に開いて下さい。急に開くと思わぬ勢いでノズルから乳剤が噴射することがあります。
- ・作業中、散布ホースを引っ張らないでください。取付部の破損や本体の転倒などのおそれがあります。

1. 散布開始

(1) スプレーヤーの散布コックを閉じます。

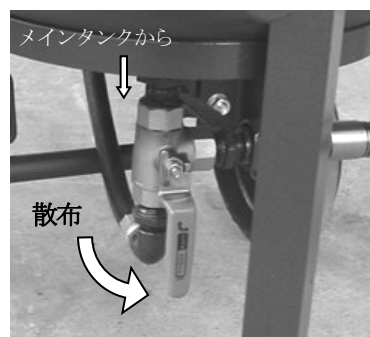
(2) タンク下切替コックを「散布」にします。

アドバイス コックの取手に流れる方向を表示していますが、取手の切り口にも表示しています。

(3) メインタンクの蓋を開き乳剤を約80%位入れます。

アドバイス 加圧するため、空気の部分を約20%位残します。

(4) 蓋を閉め棒でしっかり閉めます。



- (5) サブタンクのサブポンプを外し、軽油又は灯油（以下洗浄油）を約 80%位入れます。

アドバイス 加圧するため、空気の部分を約 20 %位残します。

- (6) 空気漏れのないようサブポンプの蓋でしっかり閉めます。
(7) エアーポンプでメインタンクへ空気を送り、加圧します。

アドバイス ・ 0. 1Mpa (約 1Kg/cm²) 位で使用可能です。0. 1～0. 2Mpa 範囲でご使用下さい。

・ コンプレサーもご利用いただけます。
この場合、加圧に注意して下さい。

- (8) 散布コックを徐々に開いて散布します。



2. 散水終了とノズル洗浄

- (1) 散布コックを閉じます。

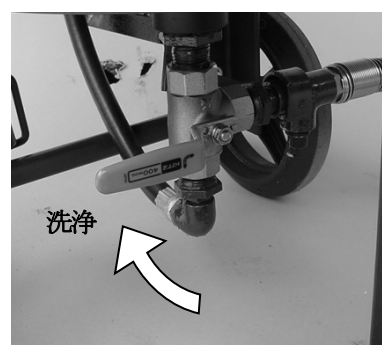
アドバイス 散布作業が終了したときは、メインタンク内の乳剤を空にします。

- (2) メインタンクのエア抜きキャップをゆるめ、メインタンク内の圧縮空気を大気中へ開放します。



タンク内に残圧があり、散布コックが完全に閉じてないと、乳剤が垂れたり漏れて汚損の原因になります。

- (3) 切替コックを「洗浄」に切替えます。
(4) サブポンプでサブタンクへ空気を送り、加圧します。
(5) 散布コックを開き、ノズルを洗浄します。



(6) 散布コックを閉じます。

(7) サブタンクのエア抜きキャップをゆるめ、サブタンク内の圧縮空気を大気中へ開放します。

4. 散布の具合が悪いとき



- ・あぶり棒を加熱するときは、メインタンクの蓋を開けてください。密閉状態で加熱すると、タンク内圧が上がり、本機の蓋、ホース、取付部、乳剤などの破損、飛散などで重大事故のおそれがあります。



- ・洗浄油がタンクの内・外に付着しているときは、あぶり棒を加熱しないでください。
- ・タンクを直接加熱しないで下さい。過熱は破損の原因になります。

(1) 乳剤が固結したときは、バーナーであぶり棒を加熱し、乳剤を溶かします。

(2) ノズルの目詰まりは、洗浄油で洗浄します。

(3) 圧力が上がらないときは、キャップ、コックの増し締めや、パッキン、ワン皮などを交換します。